

人事を尽くして

昨年は、世間でも多くの災いが起こった年でもありましたが、当塾も年末になって私の入院という非常事態になり、塾生を始め保護者の方々や多くの方々にご迷惑・ご心配おかけして申し訳ありませんでした。

病気になる、私自身の中に自分の行動・思考基準ともいえる「言葉」が明らかになっていたように思います。

「人事を尽くして、天命を待つ。」

座右の銘と言うのは気恥ずかしいのですが、自分自身の置かれた現実・現状を真摯に見つめ、自分のありたい姿に向かって、今の自分にできることを全力で取り組む。もちろんその努力がすべて報われるものではないかもしれない。それでも人事は尽くさねばならない、と考えます。それは単に目的達成のためではなく、自分自身に悔いを残さないために必要なことなのです。

ここで気をつけなければならないのは、目標に対する思いが単なる本人の無謀な希望であってはならないということです。「気合いで何とかなる。」という精神論は人事を尽くすことにはなりません。もちろん物事をつねに前向きに捉えることで、物事がうまくいくことはありますが、それはマイナス思考に陥ることにより本人が実力をだせなくなることを防ぐためのものであって、本人自身に根拠のある実力がなければ全く意味をなさないことになります。

結局「人事を尽くす。」ことは、人としての努力・勇気・情熱を注がれることによって成し遂げられるものでしかないと思います。

また、天命とはすでに用意されているものとは思いません。私は不信心者ですが、どんな神仏であろうとも、人事を尽くす者に冷たい神仏はないのではないかと思います。

もちろん天命は最終的には本人の意志とは無関係に下されます。仮にそれが自分の希望とは遠いものであったとしても、嘆いてはいけません。その天の声に従い、そのなかでよりよき道を歩もうとすることが大切なことではないかと思います。

塾生諸君にとってこれは入試での志望校への取り組みであり、今の私にとっては病魔との戦いになります。ともに人事を尽くしましょう。